

CAMPUS LOCATION キャンパスロケーション



農学部・農学研究科関連施設

《青葉山新キャンパス》

- 農学系総合研究棟
- 複合生態フィールド教育研究センター
複合生態フィールド制御部
- 次世代食産業創造センター
- 食と農免疫国際教育研究センター
- 放射光生命農学センター
- 植物実験フィールド
- 動物研究棟
- 東北大学附属図書館農学分館
- 青葉山コモンズ

〒980-8572
宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉468-1
TEL 022-757-4007

《川渡フィールドセンター》

- 複合生態フィールド教育研究センター
複合陸域生産システム部

〒989-6711
宮城県大崎市鳴子温泉字蓬田232-3
TEL 0229-84-7311

《女川フィールドセンター》

- 複合生態フィールド教育研究センター
複合水域生産システム部

〒986-2248
宮城県牡鹿郡女川町小乗2丁目10-1
TEL 0225-53-2436



東北大学農学部・農学研究科教務係

〒980-8572 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1
TEL 022-757-4007
Email agr-kyom@grp.tohoku.ac.jp
<https://www.agri.tohoku.ac.jp/jp/>



本学部案内の情報は、別途記載があるものを除き、2024年4月1日現在のものです。

TOHOKU UNIVERSITY

東北大学農学部／学部案内



FACULTY OF AGRICULTURE 2025

数字で見る
東北大学

THE世界大学
ランキング
日本版2023

第1位

高校からの評価
ランキング2023
入学後、生徒を
伸ばしてくれる大学

第1位

朝日新聞出版「大学ランキング2023」より

学部・大学院

10学部

24研究科
専門職大学院
研究所

国内最大規模フィールドセンター

東京
ディズニーランド

45個分

学生数

約18,300人
(内留学生 約2,200人)

学生数

653人

数字で見る
農学部

学部構成

2学科 6コース

研究室数

46分野

数字で見る東北大学・農学部 …… 01

研究科長・学部長あいさつ …… 02

農学部概要 …… 03

生物生産科学科 …… 05

植物生命科学コース／農業経済学コース
動物生命科学コース／海洋生物学コース

応用生物化学科 …… 09

生物化学コース／生命化学コース

国際交流 …… 11

研究トピックス …… 12

キャンパス・施設・センター紹介 …… 13

卒業生メッセージ …… 15

進路実績 …… 17

諸経費・入学試験情報 …… 18

人類の生存に欠かせない

「食料」「健康」「環境」を課題とする

生物産業融合科学の推進

農学は、自然との共生の中で、人類の生存に欠かせない食を含む多様な生物マテリアルの生産とその環境制御および効率的変換において重要な学問です。世界では、やがて迎える100億人の人類生存のための食料生産確保と100歳まで健康で元気に生きられる社会の実現が求められています。農学部では、これらの課題解決に向け、「食料」・「健康」・「環境」に関わる高度な基盤研究を推進し、「生物で新たな産業を創成する」ための応用開発研究の展開から、生物産業科学に関する幅広い融合研究・教育を行っています。農学が抱える社会的課題の解決に向けた自由な発想と挑戦的研究に高い志を持った国内外の若人が集まり、農学部構成員と共に高めあいながら発展することを願っております。

東北大学
農学研究科長・農学部長 北澤 春樹

ADMISSION POLICY

東北大学農学部のアドミッション・ポリシー

農学部では、人類の生存や福祉の向上に密接した食料・健康・環境などの科学分野に関する独創的な基礎及び応用研究を推し進めています。この中で学生諸君が専門的な知識・技術や総合的思考力を身につけ、国際的視野を持って社会で活躍できる人に育つための教育を本学部は目指しています。従って、これらの科学分野の学問と研究に強い関心と勉学意欲を持ちつつ個々の能力を本学部で磨き、将来様々な問題の解決に主体的に取り組み、果敢に挑戦する社会のリーダーとなりうる人の入学を求めています。

学部概要

東北大学農学部は、「生物生産科学科」と「応用生物化学科」の2学科が、6つのコースで構成されており、幅広い領域の研究と教育が行われています。

農学部に入学した学生は、1年次は全学教育科目などの基礎的な科目と農学部専門教育科目の一部を履修します。2年次に進級する際に、成績等を基に学科・コースが決定し、配属された学科・コースの科目と全学教育科目を履修します。3年次からコース毎の学生実験を含めた本格的な専門領域科目を履修します。4年次には一つの研究室に配属され、指導教員の下、3年間で身に付けた知識・技能を活かして卒業研修に取り組みます。

Point!

異分野融合研究教育の積極的推進

医・歯・薬学との融合による医農連携、工学・環境学との融合による農工連携、および文理融合を含め、課題解決に向けた産・官・学の共同体制も構築しつつ、学際研究教育を推進しています。

農学部

生物生産科学科	P5	植物生命科学コース 9 研究室	・作物学 ・園芸学 ・土壌立地学	・植物遺伝育種学 ・植物病理学 ・応用昆虫学	・環境適応植物工学 ・栽培植物環境科学 ・森林生態学
	P6	農業経済学コース 4 研究室	・農業経営学 ・環境経済学	・国際開発学 ・地域資源計画学	
	P7	動物生命科学コース 9 研究室	・動物生殖科学 ・動物栄養生化学 ・動物遺伝育種学	・動物生理科学 ・動物機能形態学 ・動物微生物学	・動物食品機能学 ・草地・動物生産生態学 ・動物環境管理学
	P8	海洋生物科学コース 8 研究室	・水圏動物生理学 ・水産資源生態学 ・水産資源化学	・生物海洋学 ・水圏植物生態学 ・沿岸フィールド生物生産学	・海洋生命遺伝情報学 ・国際海洋科学
応用生物化学科	P9	生物化学コース 7 研究室	・植物栄養学 ・植物細胞生化学 ・生物有機化学	・分子生物化学 ・酵素化学 ・応用微生物学	・真核微生物機能学
	P10	生命化学コース 9 研究室	・食品化学 ・栄養学 ・食品機能分析学	・天然物生命化学 ・テラヘルツ食品工学 ・応用生命分子解析*	・活性分子動態* ・分子情報化学* ・生命構造化学*

*印は、生命科学研究所に属する研究室



各コース・研究室の紹介は、コース紹介ページ及び農学部ウェブサイトをご覧ください。

カリキュラム構成

※平成29年度よりクォーター制を一部試行中

》年次・カリキュラム



- 入学式
 - 新入生オリエンテーション
 - 全学教育科目
 - 学部共通科目
- 学科・コース配属（2年次進級時）
希望調査、1年次の成績、英語スコアにより配属を決定します。また、1年次には各コースを訪問する機会を設けています。
 - コースオリエンテーション
 - 全学教育科目
 - 学科共通科目
 - コース共通科目
- 学生実験・演習配属（3年次進級時）
1、2年次の成績に基づき、進級判定を行います。進級条件を満たした場合、学生実験・演習が履修可能です。
 - オリエンテーション
 - 学科共通科目
 - コース共通科目
 - 専門領域科目
 - フィールド実習
 - 各種実験
- 研究室配属（4年次進級時）
所属コースの配属基準に基づき、一つの研究室に配属となり、研究室の指導教員の下、卒業研修（研究）を行います。
 - 専門領域科目
 - 卒業研究・論文作成
 - 就職活動・教育実習・大学院入試等
 - 卒業論文発表会
 - 学位記授与式

》実習科目（例）

陸園環境コミュニケーション論 水園環境コミュニケーション論	複合生態フィールド教育研究センターにて、野外観察と教室講義で学びます。
復興・IT農学	被災地域での実習と講義により、生産システムの実態把握と先端農学技術の応用について学び、農業現場でのIT活用における先端技術や研究について学びます。
生産フィールド実習	複合生態フィールド教育研究センターにて、各コースの学びに沿った実習を行います。
農場実習	水稻の移植実習、品質調査実習、ジャム製造などの食品加工実習、搾乳実習、森林生態調査、土壌調査等を行い、森林―草地・家畜生産―畑地―水田における生物生産の関わりや環境との関わりについて学びます。
臨海実習	暖流と寒流が会う世界有数の漁場である牡鹿半島の沿岸にて、沿岸性海洋生物における種の多様性やその生態について学びます。
家畜人工授精実習	家畜人工授精師及び受精卵移植師の資格を得るために必要な、牛における発情徴候の観察、直腸検査法による腹腔内生殖器の触診、経膣注入技術の習得を目指します。
農村調査実習	国内外の農村を対象に、年度ごとのテーマのもとで先行研究の整理や調査票の作成、現地での調査、調査結果の取りまとめ等を体験し、社会調査の実践的な方法を学びます。

Point!

恵まれた立地を活かして多様な授業を提供

農学部では多様な講義科目・実験科目・実習科目を提供しています。キャンパスが山・海・都市部に近い特徴を活かして、様々な環境で実践的な学びを経験することができます。

》大学院



取得できる資格・免許

- ◆ 中学校教諭一種免許状(理科)
- ◆ 高等学校教諭一種免許状(理科、農業)
- ◆ 食品衛生管理者等任用資格



農作物とそれを取り巻く 生物や環境に関する ライフサイエンスを研究

PLANT
SCIENCE

生物生産科学科

植物生命科学コース

地球規模で人口が確実に増加し続け、近い将来、食料不足が問題となることが心配されています。農作物は人間の食料にとって不可欠なものです。また、植物は炭酸ガスを吸収し酸素を放出するため、多くの生物が植物に依存して生活しています。すなわち植物の生活は環境保全にも欠かせません。植物生命科学コースでは、個体・遺伝子・分子レベルでの農作物の様々な現象、多様な生物間相互関係やそれらを取巻く環境との関わりなど、幅広い植物のライフサイエンスの教育・研究に取り組んでいます。例えば、イネやダイズの生産性評価とその改善、果樹、野菜、花きの生産や品質、ストレス耐性の向上、土壌と植物の相互作用、火山灰土壌、有害化学物質、植物ゲノム情報を利用した有用形質の遺伝機構の解明、ウイルスなどの病原体の病原性と植物免疫機構の分子基盤、昆虫の生理・生態に作用する化学的・物理的因子と害虫防除、遺伝子組換え技術を駆使した遺伝子の機能解明と組換え植物の開発、持続的な栽培・施肥管理、農業と環境の相互作用、森林植物、絶滅危惧種、森林微生物の生態・多様性・保全について研究しています。

Message! コース代表教員メッセージ

幸福で持続可能な社会の実現を目指して、食料や環境の問題から健康機能性まで幅広い研究と教育をカバーする魅力的なコースです。扱う対象も森林、作物、昆虫、微生物、さらには土壌、果物や花、モデル実験生物まで多様であり、またフィールドから遺伝子まであらゆる技術を駆使して課題の解決に取り組んでいます。きっと皆さんの学びたいという意欲を満たす場所が見つかるはずです。

植物生命科学コース代表 / 金山 喜則 教授



Message! コース在学生メッセージ

植物の力強さやバイオテクノロジーに興味を抱いていたので、植物生命科学コースを志望しました。9つの分野が複雑に絡み合い、様々な事象に目を向けて学びを深められます。圃場や川渡での複合的な実習も本コースならではの、現場を知る良い機会になりました。自分の中にある好奇心を種に、そして農学部で得られる広範かつ高水準な学びを糧にすれば、そのワクワクをどんどん膨らませられることと思います。

植物生命科学コース 4年 / 宮城県仙台第一高等学校（宮城県）出身 佐藤 通大



社会科学の視点から 世界の食料・農業・農村の あり方を探求

AGRICULTURAL
ECONOMICS

生物生産科学科

農業経済学コース

現在、人類の食や生活を支える基盤である農林水産業は、世界的規模での気候変動、途上国を中心とする人口爆発と食料不足、日本では農業労働力の高齢化、耕作放棄地の増大、食料自給率の低迷など重大な問題に直面しています。農業経済学コースでは、農業生産を担う経営体の育成、農産物のマーケティング、政策や制度、環境維持機能とその評価、ICT技術などを活用したスマート農業、国際的な農業・農村開発などについて主に社会科学的に探究します。講義では自然科学の科目に加え、アグリフードビジネス、農業政策、農村地域組織、開発経済、環境経済、地理情報などの科目を学びます。さらに農村調査実習や国内外を対象とする卒業研修など多様な経験を積む機会が用意されています。このような学際的な学びと現場での体験を通じて成長した当コース卒業生の進路は幅広く、様々な方面で活躍しています。

Message! コース代表教員メッセージ

農業経済学コースでは農業生産だけではなく食料や環境、地域づくりなど農をめぐるさまざまな問題を社会科学の視点から研究することができます。研究のフィールドも日本国内にとどまらず開発途上国や先進国など世界全体に広がっています。未来の農業・食料・環境問題の解決を目指して一緒に研究に取り組みましょう。

農業経済学コース代表 / 角田 毅 教授



Message! コース在学生メッセージ

私は中山間地の農業を振興させる施策を学びたく農学部および農業経済学コースを志望しました。農学部は座学に加え2カ所のフィールドでの実習を受けられるという魅力が、農業経済学コースは自然科学分野だけでなく社会科学分野も学ぶことができるという魅力があります。現在は営農組織形態の1つである集落営農に関心をもって学んでおり、卒業後は大学院への進学を目指しています。

農業経済学コース 4年 / 島根県立益田高等学校（島根県）出身 河本 紗都美



LABORATORY
研究室

▶ 環境経済学

食と農と環境の共生を
社会経済学からデザインする

環境保全型農業 生物多様性 食環境

▶ 地域資源計画学

農山漁村の地域資源を解析し
活用方を解明する

地域資源マネジメント リモートセンシング

農村開発

▶ 国際開発学

食料、農業、資源、環境問題に
国境を超えた広い視野から取り組む

開発 政策・制度 アグリフードビジネス

▶ 農業経営学

農業経営および地域営農の発展を
社会科学的手法によって解明する

持続的発展 人的資源開発 農村産業化

動物の生産、 代謝、機能、改良など 動物生命科学を研究

ANIMAL
SCIENCE

生物生産科学科

動物生命科学コース

動物生命科学コースには、動物生殖科学、動物栄養生化学、動物遺伝育種学、動物生理科学、動物機能形態学、動物微生物学、動物食品機能学、草地-動物生産生態学および動物環境管理学の9分野があります。主として家畜・家禽などの動物から、より品質に優れた乳・肉・卵・衣料・薬品などを効率よく作り出し、食糧や生物系産業に利用するための広範囲な教育と研究を行っています。そのために動物の遺伝子や細胞に関する学問領域はもとより、動物の体内に生息する微生物や、動物の飼育環境や行動に関する広い内容を研究対象とし、動物の生理生態免疫機能を解明し、広範な技術を駆使して生産能力を向上させ、その動物生産物の高度利用を目指した研究を行っています。それに加え、さらに新しい動物資源の開発を通して、人間としての生活を持続可能で一層豊かなものにするための研究を続けています。

Message! コース代表教員メッセージ

皆さんは乳肉卵製品は好きですか？産業動物が人類に与えてくれる恩恵は計り知れません。当コースは、生命科学を深く理解し、アニマルサイエンスを学びながら、持続可能な畜産のイノベーションを追求できる国内屈指の農学プログラムです。この力をもって、国内外の課題に果敢に立ち向かい、未来を切り拓く解決策を共に模索しましょう。

動物生命科学コース代表／盧 尚建 教授

Message! コース在学生メッセージ

家畜について学びたいという思いから、畜産分野のミクロからマクロまでを学ぶことができる動物生命科学コースを選びました。このコースの魅力は、学生実験やフィールド実習を通じて講義と畜産現場を紐付けた学習ができることです。食品や畜産に興味のある方にとってとても恵まれた環境だと思います。興味のある人はぜひ農学部を受験してみてください。

動物生命科学コース4年／京都女子高等学校（京都府）出身 三宅 佐和



LABORATORY 研究室

▶ 動物生殖科学

動物の生殖-発生機構の解明や
モデル動物の開発

配偶子形成 受精 初期発生

▶ 動物栄養生化学

家畜・家禽代謝の栄養制御による生産性向上

家畜飼養 分子栄養 代謝応答

▶ 動物遺伝育種学

良質で多くの乳肉卵を生産する
家畜の遺伝的解明

遺伝的能力評価 選抜育種 遺伝的多様性

▶ 動物生理科学

反芻動物の生理学的な現象を解明

ルーメンの健全性 代謝と内分泌機能

▶ 動物機能形態学

免疫器官の働きを
機能形態学的手法によって解明

粘膜組織 免疫臓器形成

▶ 動物微生物学

家畜の細菌感染症起因菌の生命現象の解明

細菌感染症 乳房炎 薬剤耐性

▶ 動物食品機能学

乳酸菌・ビフィス菌など
有用微生物の生理機能を解明

イムノバイオティクス 畜産物 生理機能性品

▶ 草地-動物生産生態学

草地生態系における生物の生態と
相互作用の解明

草地利用 土-家畜間関係 動物行動

▶ 動物環境管理学

微生物による動物の病態や
環境衛生の異常を解決

原虫病 ウイルス 環境微生物学

大海原で繰り広げられる 生命活動の探究と その応用に挑戦

APPLIED
MARINE BIOLOGY

生物生産科学科

海洋生物学コース

地球環境における海洋の役割は非常に大きなものです。また、広大で深い海洋フィールドには未知の生物や未解明の現象がたくさん存在しています。海洋生物学コースは、水圏動物生理学、水産資源生態学、水圏植物生態学、水産資源化学、生物海洋学、沿岸フィールド生物生産学、海洋生命遺伝情報学、国際海洋科学の8分野から構成されています。多様な海洋生物の進化、生理、生態、化学、育種に焦点を当て、海洋における生物生産の駆動メカニズム、生体の機能や特性について理解を深め、地球環境の将来を視野に含めた教育と研究を行っています。将来にわたって持続および利用可能な海洋生態系の保全や管理、海洋生物が持つ機能の解明や新しい食糧資源の開発に貢献できる人材を育成することが目標です。

Message! コース代表教員メッセージ

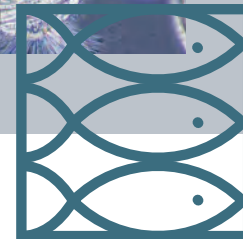
海洋生物学コースでは、海洋や河川、湖沼など様々な「水」にまつわる生き物について、生態学、遺伝学、生理学、生化学、環境学など幅広い角度から多様な研究が行われているのが特徴です。「なぜ？」という純粋な疑問から、食品や環境問題などの解決に向けて取り組んでいます。研究では困難もありますが、その先の「ワオ！」と一緒に感じられたらと思います。

海洋生物学コース代表／横井 勇人 教授

Message! コース在学生メッセージ

私は幼少期から持ち続けていた生物や自然環境への関心を胸に農学部へ進学し、1年次に各コースの紹介を聞いて海洋生物学コースを志望しました。2年後期に交換留学した経験をもとに、今は英語で指導を受けながら大好きなクラゲについての研究をしています。海洋生物学コースは、ミクロからマクロまで様々な視点で海洋の研究へ携われることが魅力です。幅広い選択肢の『海』で皆さんをお待ちしています！

海洋生物学コース4年／秋田県立秋田高等学校（秋田県）出身 戸津 絢音



LABORATORY 研究室

▶ 水圏動物生理学

水産動物の生命現象を分子レベルから
解明する

二枚貝類 生殖 遺伝子操作

▶ 水産資源生態学

沿岸生物の生活史特性と
資源変動機構の解明

沿岸漁業 耳石 環境DNA

▶ 水圏植物生態学

沿岸岩礁域の生態系システムについての研究

藻場 植食動物 海藻養殖

▶ 水産資源化学

海の幸の特徴を生化学的手法で解明する

高度有効利用 食品科学

▶ 生物海洋学

海洋低次生産層の生物の構造と機能を
解明する

ベントス生態 有用有害プランクトン

低次生産層

▶ 海洋生命遺伝情報学

水産生物遺伝資源の持続的利用に
遺伝学的手法で取り組んでいる

発生工学 バイオインフォマティクス

遺伝育種学

▶ 沿岸フィールド生物生産学

DNA分析と環境動態解析による
Seascape研究

分子生態 環境動態 進化

▶ 国際海洋科学

クラゲ類、タコ類のゲノム、タンパク質解析による
海産無脊椎動物の多様性と進化の研究

有毒クラゲ 種間系統解析 環境DNA



バイオテクノロジーとともに 人類のより豊かな 未来を追求

BIOLOGICAL
CHEMISTRY

応用生物化学科

生物化学コース

生体は多様な有機化合物から構成される集合体であり、これらの物質が調和を保ちながら再生産を維持するシステムです。さらに、生物間の関わりも微視的に見れば、分子レベルの反応であると言えます。生物化学コースでは、生物が作り出す物質の構造や機能の解明、それらが織りなす生命現象の制御機構の解明などの基礎研究に加え、生物の潜在的機能の開発に関わる応用研究を行っています。対象は微生物から植物、動物にまでおよび、ゲノム科学、生化学、分子生物学、細胞生物学、遺伝子工学、タンパク質工学、有機合成化学、分析化学などの最先端技術を駆使して教育・研究が行われ、バイオテクノロジーを通じて、生命、食、環境における諸問題を解決できる人材の育成を行っています。

Message! コース代表教員メッセージ

生物化学コースでは、生命・食・環境などの分野における諸問題に対して、生化学、分子生物学、遺伝学、細胞生物学、有機化学などの様々な手段を用いた研究・教育を行っています。また、これらの基礎研究成果の応用にも積極的に取り組んでいます。さらに2024年度から青葉山新キャンパスで稼働した次世代放射光施設 NanoTerasuを活用することで、独創的・先進的な研究の展開も目指します。

生物化学コース代表 / 原田 昌彦 教授



Message! コース在学生メッセージ

私は生化学に対して興味を持ち、生化学を用いて社会に貢献する研究ができる生物化学コースを選択しました。生物化学コースの魅力は3年生での学生実験で実験の基礎をじっくりと学ぶことができる点です。食や農業、バイオテクノロジーに少しでも興味のある方はぜひ農学部を受験を検討してみてください。

生物化学コース 4年 / 神奈川県立横浜翠嵐高等学校（神奈川県）出身 川中 浩介



食料や生体分子の 構造と機能を 化学的な方法で研究

CHEMISTRY AND
LIFE SCIENCE

応用生物化学科

生命化学コース

生命化学コースは、食や生体分子を研究対象にしている9分野から構成されています。主に化学を基盤とした手法により、食品や天然物、生物が構成する分子の構造や特性、さらに、これらがヒトや動物体内に取り込まれた時の栄養生理や、機能性についての教育と研究を行っています。タンパク質、脂質、糖質、核酸、ビタミン、自然毒など、多様な生体分子を対象に、生化学実験・遺伝子解析・細胞実験・動物実験、核磁気共鳴装置・質量分析装置・電子顕微鏡などの最新的大型分析装置を使用した精密構造解析・化学合成・新分析法開発など、生体機能分子の多面的な教育と研究を行っています。

Message! コース代表教員メッセージ

本コースは食品の機能性や物性の解析、生物活性天然物の構造解析や化学合成、さらに創薬に結びつくタンパク質の構造解析など、幅広い研究を推進しています。食品成分や生体分子を分子レベルで解析している研究室が多い点や、有機化学系の研究室が多い点も特徴と言えます。卒業生は食品系、化学系、製薬系企業、アカデミアなど多様な進路で活躍しています。一緒に研究しませんか？

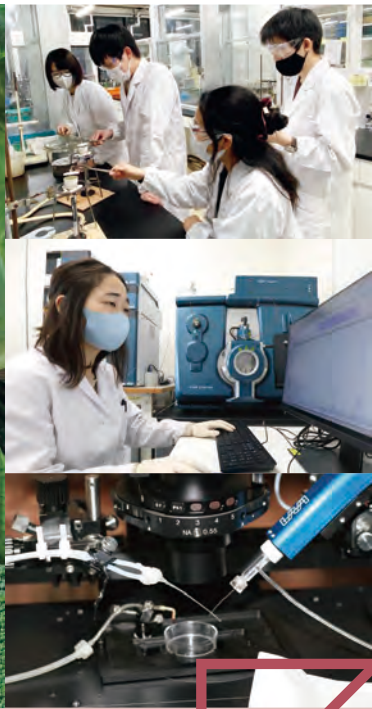
生命化学コース代表 / 田中 良和 教授



Message! コース在学生メッセージ

近年注目される食や環境の問題に興味を持ち農学部を志望しました。なかでも、食品成分や生体分子に関する研究をしたいと思い、生命化学コースに進みました。本コースは私たちの体に直接関わることも多く扱っているのとてやりがいを感じます。もしやりたいことがはっきりしていなくても、コース配属まで1年間あるので興味を持つ分野と出会えるはずです。是非農学部と一緒に学びましょう。

生命化学コース 4年 / 桐朋高等学校（東京都）出身 轟 直也



LABORATORY
研究室

- ▶ **食品化学**
食品・微生物の免疫機能性を健康に資する
抗炎症 抗アレルギー 免疫代謝
- ▶ **栄養学**
健康寿命を延ばす栄養素の作用を明らかにする
ビタミン アミノ酸 疾病予防
- ▶ **天然物生命化学**
海洋生物毒の化学構造、生合成、作用の解明
海洋生物毒 化学構造 作用機序
- ▶ **食品機能分析学**
食品機能の分析を通じて未来品質・健康社会へ繋げる
脂質 酸化/抗酸化 質量分析
- ▶ **テラヘルツ食品工学**
食品をwatchしてcreateする
高圧加工 物性評価 分光測光
- ▶ **応用生命分子解析***
生体分子の立体を原子レベルで可視化する。
タンパク質 DNA/RNA クライオ電顕
- ▶ **活性分子動態***
ケミカルバイオロジーで健康寿命の延長に挑む
ケミカルバイオロジー 農芸化学 創薬化学

- ▶ **分子情報化学***
生命科学研究が生み出す革新的分子技術
オートファジー 疾患・老化抑制 AUTAC技術
- ▶ **生命構造化学***
複雑な海洋天然物の全合成を基盤として機能解析を行う
海洋天然物 全合成 構造・機能解析

(*印は、生命科学研究科からの協力量分野)

東北大学は国立大学で最も海外協定校数の多い大学の一つとして、数多くの世界トップレベルの大学・機関と学術交流協定を締結しており、例年数百名（大学全体）が留学しています。特に農学部生は農学分野で世界を牽引しているカリフォルニア大学デービス校（アメリカ）やワゲニンゲン大学（オランダ）で勉強する機会に挑戦することができます。多種多様なプログラムを準備しており、各自のニーズに合わせて留学先・留学期間・プログラム内容を選択することができます。また東北大学のキャンパスにしながら、留学生とともに学ぶ国際共修の機会が多数あります。農学部国際学士コース（英語学位プログラム）の学生と共同で受ける授業や国際共修ゼミに参加する機会があります。この他に、「Be Globalプロジェクト」や「東北大学グローバルリーダー育成プログラム（TGLプログラム）」があり、ニューノーマル時代に適応した教育の国際化展開及びグローバル人材としての能力開発を推進しています。

大学間協定校
245
大学・機関
36か国・地域
(2023年5月1日現在)

Be
Global
@TOHOKU UNIVERSITY

TGL
Tohoku University
Global Leader Program



■大学間学術交流協定に基づく交換留学プログラム

1年間又は1学期間、留学先の現地学生と同じ授業を受け研究活動を行います。多くの場合、留学先の授業料は免除となり、取得した単位は東北大学の卒業単位として単位互換することが可能で、留年せずに卒業することも履修状況次第で可能です。

■短期海外研修プログラム

テーマ学習に取り組むスタディアブロードプログラム、教員引率型のファカルティレッドプログラム、海外体験プログラム、短期オンライン型留学プログラムなどを準備しています。

■ダブルディグリープログラム

東北大学と留学先大学の両大学から学位取得を目指すプログラムです。本プログラムの協定校は世界各国からエリートを集めて高度な教育を実施している学校であり、実質的な専門知識、研究能力、国際性、異文化対応力の養成が期待されています。



留学概要

プログラム	大学間学術交流協定に基づく交換留学プログラム
留学先	カリフォルニア大学デービス校（アメリカ）
留学期間	2022年9月～2023年6月



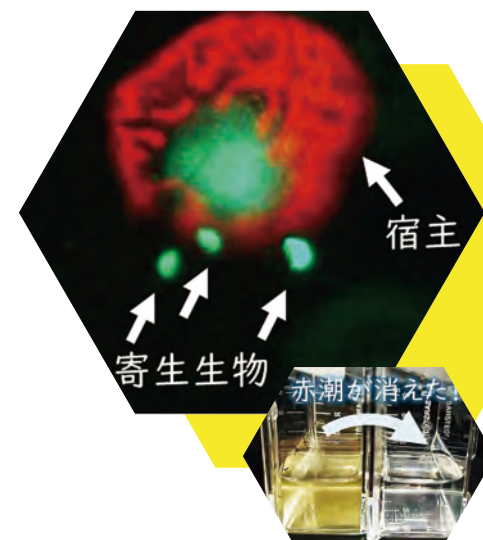
Pricy but
Priceless

生命化学コース 4年
仙台市立仙台青陵中等教育学校
(宮城県)出身

山本 望海

中学2年生の頃から興味があった腸内環境・ピフィズ菌の研究において、世界的に著名なMills教授に会いたいと思い、留学先の第一志望にUC Davisを選びました。渡米前に連絡をとったところ、運よく彼の研究室のメンバーになることができ、1年間、研究活動を行いました。週に1回、教授と研究成果や留学生活について話したり、研究発表会に参加したりと、アメリカで研究できたことは一生の財産になりました。また、履修したThe Design of Coffeeという授業では、コーヒーの香りや味に影響を与える物理的・化学的要因について学び、学んだことを活かして「最低限の消費エネルギーで美味しいコーヒーを作る」というgroup competitionを行いました。現地学生と話し合いながら、焙煎・粉碎・抽出条件を変える中で、英語力・異文化理解・プレゼンスキルが養われていくのを実感できました。異国の地で、一からコミュニティを築くのは大変なことも多いですが、留学で得られた経験・人脈は、自分を心身ともに強くしてくれました。留学に興味がある方には、ぜひ勇気を出して挑戦してみてください！

1 赤潮を消滅させる寄生生物を世界で初めて発見



世界の人口増加に伴い、海洋における漁業・養殖業の重要性は今後さらに高まっていくと思われます。海に囲まれた日本は、特に豊富な水産資源を有しており、食糧増産の大きな可能性を秘めています。しかし近年、赤潮や貝毒といった有害有毒プランクトンの増加による被害が多発するようになりました。私たちの研究室では、そのようなプランクトンに感染して消滅させる寄生生物を発見し、その知られざる微生物間の神秘に驚きながら、日々研究をしています。今後はこの寄生生物を天敵製剤として、実際の海洋に適用することを目指しています。

農学部・農学研究科 西谷 豪 准教授

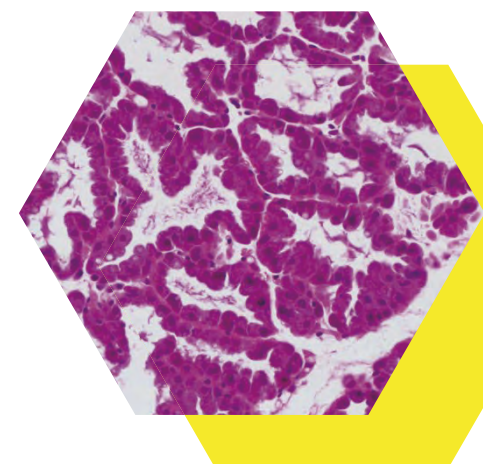
2 青色光の殺虫効果を世界で初めて発見

多くの昆虫の生存・繁殖に光は必要なものですが、その反面、致死効果を発揮するほどの毒性を示すこともあります。紫外線の動物への強い毒性はよく知られていますが、毒性はほとんどないとされていた可視光の中の青色光に、殺虫効果があることを発見しました。青色光は様々な昆虫種に殺虫効果をもつこともわかり、クリーンでノンケミカルな害虫駆除への利用が期待されています。青色光殺虫はすでに一部の食品工場で導入され、農業での実用化も研究中です。また、殺虫メカニズムも徐々に分かりつつあります。

農学部・農学研究科 堀 雅敏 教授



3 母乳中抗体が作られるメカニズムを解明



母乳に含まれる抗体は、免疫機能が脆弱な幼若期の子に移行される母体由来の重要な免疫物質で、その多くは授乳期の乳腺に存在する形質細胞（リンパ球の一つであるB細胞より分化した細胞）から分泌されます。この形質細胞の由来を特定することを目的とした研究を通して、その大半が、乳腺から遠く離れた腸管に由来していることを明らかにしました。また、母乳中抗体が産生される際に腸管の免疫機能が高められるためには、腸管内に生息する特定の微生物の存在が重要であることを突き止めました。

農学部・農学研究科 野地 智法 教授

NEW! 青葉山新キャンパス

2017年に完成した東京ドーム17個分の敷地面積を有し、仙台駅から地下鉄で約10分の環境共生型キャンパス。教育・研究施設、図書館、学生寮、食堂、コンビニなどの施設があります。

1 東北大学附属図書館農学分館

面積は5,732㎡、閲覧席数369席、図書・雑誌・新聞など収蔵可能数は71万冊。L字型のパーソナルワークデスクやラウンジなどがあり、職員によるレファレンスサービスも提供しています。

2 ラーニングcommons

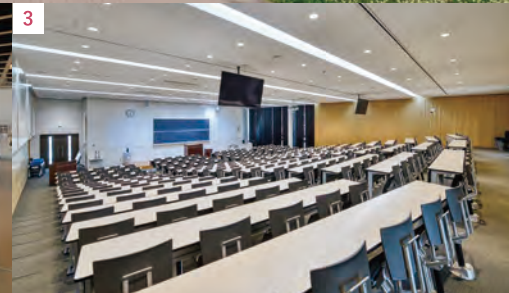
主体的な学習・交流スペースとして160席設けられており、机・椅子・ホワイトボードは自由に移動可能。様々な機器の貸し出しをしており、グループ学習やイベントなどで使用可能です。

3 講義室

300人規模の大講義室を始め、全11室4種類の大きさの講義室で授業を受けます。講義室にはプロジェクター、スクリーン、カメラが設置されており、オンライン授業や海外との共修授業が可能です。

4 ユニバーシティ・ハウス青葉山

日本人学生と留学生700人以上が居住可能な国際混住型の大学直営学生寮。学生アドバイザーの配置、家具・家電製品完備、管理会社の24時間サポートで快適な寮生活を整えています。



農学部施設・関連センター

1 農学系総合研究棟

教員・学生研究室、実験室、専門施設、学部事務室等を有し、本棟と別棟からなる地上5階建ての研究棟。施設全体はロの字型の実習部門、円弧状の研究部門に区分けされており、建物の安全性を確保する為、免震構造を採用しています。

2 植物実験フィールド

圃場、加温・無加温ガラス室、自然光型小型ファイトロン、人工光単色光多連培養室、植物生育制御実験室等があり、イネを始めとした穀物類、様々な園芸作物や果樹等の栽培と生産に関する実験を行っています。

3 動物研究棟

小動物研究施設、家畜研究施設、家禽研究施設、動物機能・形態解析施設及び増肥施設から構成され、生命現象の解明、食に関する基礎研究、飼養管理や発生工学研究を行っています。

4 植物環境応答実験施設

9室の植物環境制御室と2室の培養室を駆使し、地球上の様々な環境を想定した条件での植物の栽培やそれらの環境に適応する形質転換体植物の作出など、植物の環境応答の研究を行っています。

5 放射性同位元素実験施設

放射線管理区域内で非密封放射性同位元素(RI)を使用した生物実験が可能。国の使用承認を受けた実験施設で、非密封RIを使用した農学分野の幅広い実験を行うことが可能です。

6 次世代食産業創造センター

農林水産・食品産業の発展と生物多様性の維持を両立させ、工学系等の異分野との連携で社会課題の解決を目指す研究・教育を行います。写真はプラズマ農業の実証実験の様子です。

7 食と農免疫国際教育研究センター

新たに医農免疫の分野横断的な強力基盤と放射光を取り入れた次世代生命農学の拡大により、食と農免疫の国際教育研究を推進し、世界をリードする次世代型農業の発展と人材育成に貢献します。

8 複合陸域生産システム部(川渡フィールドセンター)

大学附属農場として全国一の規模を誇り、森林・草地・耕地における動物・植物・土壌の関係を複合的に解明し、食糧生産と環境保全の両立を目指した教育研究を行っています。

9 複合水域生産システム部(女川フィールドセンター)

海洋環境や海洋生物など、絶好の教育・研究条件のもとで、海洋空間の有効利用及び海洋生物資源の持続的利用技術に関する体系的な海洋生物生産システムの教育、実習及び研究を行っています。

10 複合生態フィールド制御部

複合生態フィールドとは森林・草地・農地の陸域と沿岸・海洋の海域、そして都市部を結びつけた領域で、これらの領域をリモートセンシング技術を活用して調査しています。

11 放射光生命農学センター

農学部に近接する次世代放射光施設"NanoTerasu"を活用して、食料・健康・環境を中心とした農学・生命科学領域の様々な課題に取り組み、研究教育や産学官連携を推進しています。※写真はPhoSIC提供



学生数

学部						
区分	コース	入学定員	1年次 現員	2年次 現員	3年次 現員	4年次 現員
生物生産科学科	植物生命科学			28	29	29
	農業経済学			12	11	10
	動物生命科学			29	27	33
	海洋生物科学		4*	31	29	36
応用生物化学科	生物化学			31	30	31
	生命化学			30	30	34
学科未配属			158	1		
計		150	162	161	157	173

※国際学士コース

学生寮

》学生寮

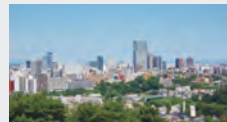
仙台市内3地区に6学寮を設置しており、多くの学生が共同生活をしています。

	住所	定員(日本人)	寄宿料(月額)
明善寮 めいぜん	〒980-0011 仙台市青葉区上杉六丁目3-2	男子160名	4,300円
松風寮 まつかぜ	〒980-0011 仙台市青葉区上杉六丁目3-2	男子150名	4,300円
以文寮 いぶん	〒982-0832 仙台市太白区八木山緑町16-3	男子 96名	4,300円
霽風寮 せいふう	〒982-0832 仙台市太白区八木山緑町16-3	男子 81名	4,300円
日就寮 にっしゅう	〒982-0832 仙台市太白区八木山緑町16-3	男子103名	700円
如春寮 じょしゅん	〒981-0935 仙台市青葉区三条町19-1	女子 64名	4,300円

》ユニバーシティ・ハウス (UH)

ユニバーシティ・ハウス(UH)は、国際化をけん引できる人材の育成、8人を1ユニットとする入居構成、安心・安全・高品質な生活環境などを基本コンセプトとした教育的施設の学生寄宿舎です。

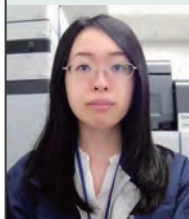
	住所	定員(日本人)	寄宿料(月額)
UH三条	〒981-0935 仙台市青葉区三条町19-1	男子150名 女子136名	Aタイプ 21,600円 Bタイプ 22,000円
UH三条II	〒981-0935 仙台市青葉区三条町19-1	男子 36名 女子 45名	22,000円
UH三条III	〒981-0935 仙台市青葉区三条町19-1	男子 64名 女子 40名	22,000円
UH青葉山	〒980-8572 仙台市青葉区荒巻字青葉468-1	男子220名 女子156名	28,000円



Point! 青葉山新キャンパスの更なる発展へ

次世代放射光施設"NanoTerasu"と連動し、様々な社会課題解決のための価値創造・共創のプラットフォームとなる「東北大学サイエンスパーク構想」が進められています。

植物生命科学コース／PLANT SCIENCE



勤務先 独立行政法人
農林水産消費安全技術センター

修士課程 東北大学大学院 農学研究科

鈴木 万智

植物病理学研究室（2016年3月卒業）

農学部の魅力は、座学や実習を通して幅広く農学の知識を身に付けながら専門性を高めていけることだと思います。私は植物病理学研究室で植物ウイルスの適応性に関する研究に取り組み、食の安全性を技術的な面から支える職に就きたいと思ったことから今の就職先を選びました。現在は農薬の登録審査に携わっていますが、専門的な面だけでなく使用される現場を想像する上でも農学の基礎的な知識が役立っています。

勤務先 農林水産省

修士課程 東北大学大学院 農学研究科

笠原 雅美

植物病理学研究室（2016年3月卒業）

土や農作物が好きだったので、植物生命科学コースを選びました。イネの病気に関心を持って研究するうちに、「食」に関わる仕事に就きたいと考え、卒業後農林水産省に入省し、日本の農業政策に関わっています。学生時代の研究室生活において、留学生から祖国の料理を教わり、やはり「食」は生活する上で大切な要素であると感じたことや、研究を通して学ぶことができた様々な知識や能力は、今の仕事にとっても役立っています。



海洋生物科学コース／APPLIED MARINE BIOLOGY



勤務先 株式会社 東北テクノアーチ

修士課程 東北大学大学院 農学研究科

岡田 梨可

水産資源化学研究室（2015年3月卒業）

私は生活の中にある科学を追及したいという思いから農学部に興味を持ちました。入学の決め手は、緑豊かな仙台の土地柄と農学部オープンキャンパスの和やかな雰囲気です。水産資源化学研究室では「ギンザケの植物性飼料に対する嗜好性評価」に関する研究を行いました。農学部の魅力は研究室間の垣根がなく、先生・学生含め色々な方から学びが得られる点です。卒業後は農学部をはじめ大学の研究成果の社会活用に貢献したいという思いから㈱東北テクノアーチに就職し、大学知財の特許化支援、技術移転業務を行っています。農学部で培った知識は、薬学・医学など幅広い分野のライフサイエンスを理解するための基礎となっています。

勤務先 長崎県庁

修士課程 東北大学大学院 農学研究科

伊藤 知洋

水圏植物生態学研究室（2011年3月卒業）

私は、海洋生物科学コースで2種のウニの消化吸収特性と消化酵素活性の季節的変動を研究し、生態学的な影響等について検討しました。大学での学びは必ずしも研究分野の中のみにあるのではなく、リベラルアーツで得られる他分野からの視点、その他の課外活動で得られる体験、そして社会とのつながり、特に実際の産業の現場を肌で感じる事が重要です。一人よがりにならず、産業の現場とのつながりを意識した研究をし、社会でも活躍できる人材になっていただけると幸いです。



農業経済学コース／AGRICULTURAL ECONOMICS



勤務先 国立研究開発法人
農業・食品産業技術総合研究機構

長田 佑太

国際開発学研究室（2017年3月卒業）

私は食に関することを自然科学だけでなく社会科学も含めた多様な視点から学びたいと思い、農業経済学コースを志望しました。実際、多分野な科目、圃場での実習、農業現場の調査など様々なアプローチで学ぶことができ、現在研究機関の事務として様々な研究分野の方を支える上で基礎になっていると感じています。また、講義内外問わず学生の意欲に対してどの先生方も熱心に応えてくれるところも魅力のひとつだと思うので、自分次第で様々なことが学べる環境が整っていると思います。

勤務先 株式会社 日本政策金融公庫

修士課程 東北大学大学院 農学研究科

木暮 悠太

環境経済学研究室（2016年3月卒業）

私は現在農業向けの融資業務を中心に働いています。今日皆さんが食べたごはんは私のお客様が育てたものかもしれません。学部では農業経済学について勉強していました。在学中に学んだことを活かして、農家さんと一緒に働けることが仕事のやりがいです。東北大学では自然科学に限らず、社会科学からの視点も含めて、幅広く農業・農学を学ぶことができます。皆さんも東北大学で自分にあった道を見つけてはいかがでしょうか。



生物化学コース／BIOLOGICAL CHEMISTRY



勤務先 ファイザー・ファーマ 株式会社

修士課程 東北大学大学院 農学研究科

荒井 啓

真核微生物機能学研究室（2017年3月卒業）

私は、日本の伝統文化である酒・醤油・味噌に欠かせない微生物（麹菌・酵母）がどのようにそれらの食品を生み出すのか、その伝統的産業の裏にあるメカニズムに関して、遺伝子発現制御と代謝に関する研究を行っていました。現在は、グローバルな環境で医薬品の品質管理や新技術導入に関する業務を行っています。その中で、農学部での幅広い教育から得られた多角的な視点が、私の創造力の基盤になっています。農学部は持続可能な世界を目指す中で最も重要な学部だと思っています。

勤務先 味の素 株式会社

修士課程 東北大学大学院 農学研究科

博士課程 東北大学大学院 農学研究科

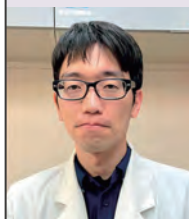
大橋 美和

植物細胞生化学研究室（2014年3月卒業）

私は、食を通じた社会貢献を志して、農学部に進学しました。農学部の魅力は、食や農、医薬など、人々の生活に深く関わる学びを得られる点だと思います。私は、生物化学コースで日本人の主食であるイネの窒素代謝機構について研究しました。現在は、企業でバイオ医薬品のプロセス開発研究を行っています。分子生物学の知識、論理的思考や統計解析手法など、農学部で学んだ知識・スキルが、現在の仕事に活きていると感じています。



動物生命科学コース／ANIMAL SCIENCE



勤務先 JA全農ET研究所

修士課程 京都大学大学院 農学研究科

博士課程 東北大学大学院 農学研究科

造田 篤

動物遺伝育種学研究室（2015年3月卒業）

私は動物生命科学コース内の動物遺伝育種学研究室に進み、家畜の遺伝的改良に関する研究に取り組みました。学んだことを実際の現場に活かしたいと考え、現在は多数の黒毛和種を保有する企業に就職し、牛群の改良業務に従事しています。動物生命科学コースでは、人工授精師や受精卵移植師の資格も取れるため、研究・現場両方の仕事に取り組むことができております。研究はもちろんのこと、現場で重宝される資格が取れることも魅力の一つだと思います。

勤務先 キリンホールディングス 株式会社

修士課程 東北大学大学院 農学研究科

林 諒子

動物生理科学研究室（2013年3月卒業）

オープンキャンパスの模擬講義をきっかけに生物についてより深く学びたいと考え、農学部に進学し畜産動物の内分泌制御に関する研究に取り組みました。農学部は入学後学び始めてから自身の興味に応じたコースを選べる点が魅力だと感じます。卒業後は食を通じ人々の生活を豊かにしたいと思い現在の会社に入社しました。酒類の技術開発や工場の生産管理など幅広い業務を経験してきましたが、どの部署でも学生時代に培った仮説を立てPDCAを回す習慣が役立っています。



生命化学コース／CHEMISTRY and LIFE SCIENCE



勤務先 株式会社 資生堂

修士課程 東北大学大学院 生命科学研究所

岡部 真琴

応用生命分子解析研究室（2020年3月卒業）

私は高校生の時に興味を持っていた化学と生物の両方を学ぶことができる農学部に興味を持ち、進学しました。生命化学コースで食品や薬について学び、薬が生体内で作用する仕組みを詳しく研究したいと思い、大学院では創薬に関する基礎研究を行いました。研究環境はもちろんのこと、指導教員の先生や研究室メンバーに恵まれ、充実した研究生活を送ることができました。現在は株式会社資生堂で研究開発職として働いています。これまで培った論理性や物事を遂行する力を活かして働いています。

勤務先 アサヒビール 株式会社

修士課程 東北大学大学院 農学研究科

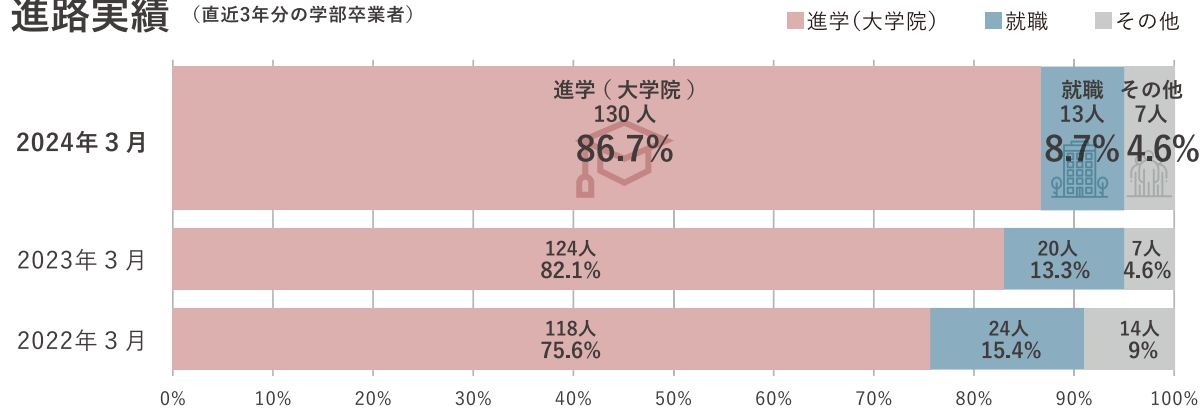
宮下 采夏

食品機能分析学研究室（2020年3月卒業）

私は食と健康への興味から生命化学コースを選択し、機能性成分であるポリフェノールの研究をしていました。農学部の魅力は、幅広い学びと専門性の高い経験に触れることができる点だと思います。多様な分野の最前線で活躍されている先生方や志高い友人から刺激を受けながら、充実した大学生活を送ることができました。私は食を通じて彩りある生活に貢献したいという想いから現在の会社に入社しました。基礎研究の視点から、未来のお酒の可能性開拓を目指しています。



進路実績（直近3年分の学部卒業生）



進学先・就職先実績（2024年3月卒業生・修了者）

》学部

主な内訳(%)	進学	86.7
	情報通信業	3.3
	運輸業・郵便業	0.7
	学術・開発研究機関	0.7
	卸売業	0.7
	公務員	3.3
	その他	4.6

主な進学先・就職先 進学 86.7% / 就職 8.7% / その他 4.6%

【進学先】東北大学農学研究科、東北大学生命化学研究科、東北大学情報科学研究科、東京大学農学生命科学研究科、東京大学総合文化研究科、大阪大学微生物病研究所、東京農工大学、高麗大学校大学院情報大学、National University of Singapore

【就職先】(株)日立ソリューションズ東日本、(株)東邦システムサイエンス、(株)ビジョナル、エン・ジャパン(株)、(株)大和総研、全日本空輸(株)、(独)農林水産消費安全技術センター、住友商事(株)、宮城県庁、富山県庁、石川県庁、栃木県庁、群馬県庁

農学研究科

》前期2年の課程（修士）

主な内訳(%)	農業・林業	0.8	卸売業	2.5
	食料・飲料等	21.0	金融業	2.5
	化学工業・石油製品等	7.6	保険業	0.8
	鉄鋼、非鉄・金属製品	0.8	不動産取引・賃貸	0.8
	はん用・業務用機械	0.8	学術・開発研究機関	3.4
	電子部品・デバイス等	0.8	その他技術サービス業	3.4
	電気・情報通信機械	1.7	宿泊、飲食サービス業	0.8
	輸送用機械器具	0.8	その他のサービス業	5.9
	その他の製造業	2.5	公務員	7.6
	電気・ガス・熱・水道	2.5	進学	17.6
	情報通信業	10.0	その他	4.2

農学研究科

》後期3年の課程（博士）

主な内訳(%)	農業・林業	4.3	その他技術サービス業	3.4
	食料・飲料・たばこ等	20.7	飲食・サービス業	3.4
	その他の製造業	6.9	学校教育	17.2
	情報通信業	3.4	公務員	6.9
	医療業・保健衛生	3.4	研究員等	10.3
	学術・開発研究機関	7.4	その他	10.3

主な進学先・就職先 進学 17.6% / 就職 78.2% / その他 4.2%

【進学先】東北大学農学研究科、東京大学新領域創成科学研究科、京都市大学生命科学研究科

【就職先】住友林業(株)、(株)伊藤園、キリンホールディングス(株)、伊藤ハム(株)、(株)ニチレイフーズ、青葉化成、一正蒲鉾(株)、伊那食品工業(株)、(株)渡會、(株)明治、森永乳業(株)、(株)Mizkan J plus Holdings、日清ファルマ(株)、カンロ(株)、テーブルマーク(株)、(株)日清製粉ウェルナ、キッコーマン(株)、味の素(株)、江崎グリコ(株)、日本たばこ産業(株)、日本カバヤ・オハヨーホールディングス(株)、理研ビタミン(株)、東洋紡(株)(旧東洋紡績)、日本全業工業(株)、帝人(株)、デンカ(株)、大陽日酸(株)、協和キリン(株)、花王(株)、ノボ ノルディスク ファーマ(株)、JFEスチール(株)、(株)キーエンス、JASM(株)、セイコーエプソン(株)、コニカミノルタ(株)、(株)シマノ、松山(株)、第一三共(株)、日本原燃(株)、(株)JERA、(株)NTTドコモ、(株)ペイカレント・コンサルティング、マイシアターD.D.(株)、(株)読売新聞東京本社、(株)インテック、(株)OKIソフトウェア、(株)CINC、(株)ライトワークス、(株)アカツキゲームス、パナソニック インフォメーションシステムズ(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・データ、タキイ種苗(株)、伊藤忠エネクス(株)、農林中央金庫、(株)みずほフィナンシャルグループ、全国共済農業協同組合連合会、ミサワホーム(株)、(国研)水産研究・教育機構、(一財)阪大微生物病研究会、(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構、PwCコンサルティング(同)、パナソニックオペレーションズ・エクセレンス(株)、(株)ローランド・ベルガー、(株)エスネットワークス、(株)星野リゾート、(株)日本総合研究所、(株)メディクルード、パーソルキャリア(株)、アクセントチャ(株)、(株)クイック、海上保安庁、農林水産省、林野庁、山形県庁、宮城県庁、東京都庁、岡山県庁、農業農村開発省(ベトナム)

主な就職先 就職 79.4% / その他 20.6%

【就職先】日清丸紅飼料(株)、(株)ファンケル、日本たばこ産業(株)、サッポロビール(株)、日清オイリオグループ(株)、(株)伊藤園、キリンホールディングス(株)、住友ファーマ(株)、(株)フジワラテクノアート、(株)河北新報社、Zhejiang Provincial People's Hospital、国立感染症研究所、(国研)農業・食品産業技術総合研究機構、特許業務法人 オンダ国際特許事務所、(株)サイゼリヤ、東北大学農学研究科、宮城大学、宮城県庁、研究員等

入学料・授業料

学部学生	授業料	入学料	検定料
	年額 535,800 円 半期 267,900 円	282,000 円	入学 17,000 円 再入学、転入学及び編入学 30,000 円

経済支援

》授業料の免除

日本学生支援機構給付奨学生(採用候補者を含む)となっている者は、申請により、給付奨学金の支給区分(第Ⅰ区分から第Ⅲ区分のいずれか)に合わせた授業料免除の対象となります。また、上記の外に東日本大震災等の大規模災害により被災した方を対象とした授業料免除制度があります。それぞれ申請手続き等の詳細については、東北大学ホームページで確認してください。

》奨学金

日本学生支援機構による奨学金の貸与や給付のほか、地方公共団体や民間奨学財団による奨学金の貸与や給付の制度があります。

ADMISSIONS 入学試験情報

2025年度農学部入学試験情報

東北大学農学部では2種類のAO入試を含めた3回の入試を行っています。3回の入試の重複受験も可能です。

AO入試Ⅱ期

大学入学共通テストを課さない

23名
募集

出願要件

調査書の学習成績概評がA段階に属する者。高校での履修指定科目あり。

選抜方法

筆記試験 400点
面接試験 600点
(農学に関する題材で小作文を課す)
合計 1,000点

試験日

出願期間：10月中旬
1次選考：11月上旬
2次選考：11月中旬

合格発表

11月下旬

AO入試Ⅲ期

大学入学共通テストを課す

22名
募集

出願要件

大学入学共通テストにおいて指定する教科・科目を受験した者。既卒者受験可。

選抜方法

大学入学共通テスト 950点
(国立大理系6教科7科目標準配点)
面接試験 300点
(農学に関する題材で小作文を課す)
合計 1,250点

試験日

出願期間：1月下旬
試験日：2月上旬

合格発表

2月上旬

一般選抜

前期日程試験

105名
募集

出願要件

大学入学共通テストにおいて指定する教科・科目を受験した者。

選抜方法

大学入学共通テスト 950点
(国立大理系6教科7科目標準配点)
個別学力試験 2,100点
(数学・理科・英語各700点)
合計 3,050点

試験日

出願期間：1月下旬～2月上旬
試験日：2月25日・26日

合格発表

3月上旬

●そのほか、国際バカロレア入試(若干名募集)をAO入試Ⅱ期と同時に行っています。入試情報の詳細は <http://www.tnc.tohoku.ac.jp/> をご覧ください。また、必ず学生募集要項もご確認ください。

